

第341回: 子宮体癌術後経過観察中に右鼠径部の肉腫が 急速に進行した一例

(2022.10.28)

北見 和久(司会, 婦人科), 栃本 昌孝, 梶田 咲美乃(病理学),
田中 将貴, 谷口 美香, 年吉 陸, 中村 悠仁(研修医)

症例概要

症例: 52歳, 女性

主訴: 腹痛, 腹部膨満感

既往歴

子宮体癌IIIc1/類内膜癌G1に対し腹式子宮全摘, 両側付属器切除, 骨盤リンパ節郭清施行(2年前)

家族歴: 母; 肺癌

生活歴: 喫煙; 20本/day 30年, 飲酒; 機会飲酒

現病歴

X年Y月に子宮体癌IIIc1/類内膜癌G1 pT2N1M0に対し腹式単純子宮全摘, 両側付属器切除, 骨盤リンパ節郭清を施行し, 右外鼠径上節, 左内腸骨節にリンパ節転移陽性であった。Y+2月から, 術後補助化学療法TC6コース (PTX 175 mg/m², CBDCA AUC6) が施行された。術後経過観察中に右鼠径部病変を認め, X+2年

Y+7月に右鼠径部腫瘍切除術が施行され, 未分化肉腫と診断された。術後3週間にCTで右鼠径部切除部位に腫瘍の再発を認め, 腹痛, 腹部膨満感などの腹部症状を認め, 近医受診。その1週間後に当院婦人科に紹介受診。鼠径部再発, 腹膜播種, 肺転移, 腹水貯留の緩和治療目的に入院となった。疼痛コントロール, 腫瘍による腸閉塞に対する加療などを行ったが, 入院後○日後に意識障害が生じ, 全身状態も次第に低下, 入院後○日後に永眠された。

病理所見

主病変

1. Sarcoma(右鼠径部)
2. 子宮体癌術後+術後補助化学療法後

随伴病変

諸臓器うつ血(肝臓1,011 g), 脾(66 g), 腔水症(胸水400/600 ml), 膵low grade Pan IN, 左腎周囲膿瘍, 膀胱炎

(当症例は学術誌に投稿予定のため, 抄録のみ掲載した)